

気候情報

2020年7月の日本の天候

- 「令和2年7月豪雨」が発生
- 北日本太平洋側と東・西日本で日照時間はかなり少なかった
- 気温は、西日本でかなり低く、東日本で低かった

7月の天気概況

太平洋高気圧は日本の南海上で強く、その縁辺を回る湿った空気が流れ込みやすかったため、活動が活発な梅雨前線が本州付近に停滞した日が多く、7月を通して断続的に河川の氾濫や土砂災害などの甚大な被害が発生した（「令和2年7月豪雨」）。東・西日本の月降水量はかなり多く、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側の月降水量は平年比245%、222%、240%となり、7月として1946年の統計開始以来第1位の多雨となった。月間日照時間は北日本太平洋側と東・西日本でかなり少なく、東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側の月間日照時間は平年比40%、41%、50%、57%となり、7月として1946年の統計開始以来第1位の寡照となった。

上旬：日本付近で偏西風が蛇行して黄海付近が気圧の谷となり、太平洋高気圧の縁辺を回る湿った空気と西から流れ込む湿った空気が日本付近で合流したため、梅雨前線の活動が非常に活発となった。東・西日本を中心に各地で長期間にわたって大雨となり、河川の氾濫や土砂災害などの甚大な被害が発生した。

旬平均気温は、北日本と沖縄・奄美で高かった。一方、西日本で低かった。東日本では平年並だった。

旬降水量は、北日本日本海側と東・西日本でかなり多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

旬間日照時間は、東日本と西日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。北日本では平年並だった。

中旬：梅雨前線上を進む低気圧の影響で、東・西日本では大雨となった所があった。曇りや雨の日が多く、北からの冷たい空気の影響もあったため、旬平均気温は西日本でかなり低く、東日本で低かった。北日本日本海側では高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったため旬間日照時間はかなり多かった。なお、20日ごろには奄美地方で梅雨明けしたとみられる（速報値）。

旬平均気温は、西日本でかなり低く、東日本で低かった。沖縄・奄美では高く、北日本では平年並だった。

旬降水量は、東日本と沖縄・奄美で多かった。北・西日本では平年並だった。

旬間日照時間は、北日本日本海側でかなり多かった。一方、北・東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では少なかった。東日本日本海側では平年並だった。

下旬：梅雨前線は本州付近に停滞しやすく、28日には山形県を中心に大雨となり、河川の氾濫などの被害が発生した。期間の終わりには、太平洋高気圧が張り

出したため西日本を中心に晴れとなり、28日ごろには九州南部で、30日ごろには九州北部地方、四国地方、中国地方で、31日ごろには近畿地方で梅雨明けしたとみられる（速報値）。

旬平均気温は、北・東・西日本で低かった。一方、沖縄・奄美で高かった。

旬降水量は、東・西日本でかなり多く、北日本で多かった。沖縄・奄美では平年並だった。

旬間日照時間は、東日本と西日本日本海側でかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。北日本日本海側と沖縄・奄美では平年並だった。

7月の気候統計

月平均気温：西日本でかなり低く、東日本で低かった。一方、沖縄・奄美で高かった。

月降水量：東・西日本でかなり多く、北日本と沖縄・奄美で多かった。

月間日照時間：北日本太平洋側と東・西日本でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった。一方、北日本日本海側では平年並だった。

（気象庁観測部情報管理室）

—— 7月の記録（1位更新のみ、タイ記録含む）——

- ・月平均気温高い方から（℃）
与那国島（沖縄県）30.1など2地点
- ・月降水量多い方から（mm）
牛深（熊本県）1342.0など17地点
- ・月間日照時間の多い方から（h）
留萌（北海道）265.5
- ・月間日照時間の少ない方から（h）
高田（新潟県）30.5など46地点

2020年7月の平年差（比）図

